

講義名	教養特講（プレゼンテーション技法入門）				授業形態	
担当教員	松岡 陽子	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 4 時限			
		単位数	2	履修開始年次	1 年生	ナンバリング・コード FVE101

主題と概要

本授業は、受講生のみなさん自身がプレゼンテーションを準備、実践していきながら、その基本的な諸技法を段階的に習得していけるようデザインされている。したがって、みなさんの実践への取り組みそのものが授業の成否を大きく左右する。
個人での実践もグループ単位での実践も設定したが、いずれも仲間との積極的協働を通じて、より創造的で実りある学習が可能になるだろう。プレゼンテーションはそもそもコミュニケーションの一形態であるのだから、他者との協働を楽しむつつ、入門編としてまずは様々な形でプレゼンテーションに慣れ親しんでほしい。ここではまた、対面だけでなく、遠隔でのプレゼンテーションにも挑戦してもらう予定である。
そのようにして身につけたプレゼンテーションの基本的な技法や態度は、これからの大学の学修はもちろん、その後も様々な場面で活かせるはずである。

到達目標

1. プレゼンテーションとはどのような行為か、その目的（意義）および方法を理解できるようになる。
2. プレゼンテーションの基本的な諸技法を理解できるようになる。
3. 課題（テーマ）や方法（たとえば、対面/遠隔）に応じて、基本的技法を用いた効果的なプレゼンテーションを構想、実践できるようになる。

提出課題

主要課題は以下1.から3.。その他、授業中を含めて課題提出を適宜、求める（4.）。

1. 中間課題（実践）：作成資料（スライド等）、振り返りレポート
2. 中間課題（実践）：作成資料（スライド等）、振り返りレポート
3. 期末課題（スビンオフ・プレゼン）：作成資料/レポート 等
4. その他：授業中の提出を含む諸課題（相互評価シート等）

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

中間課題 の作成資料に関しては、個人/全体に向けて評価・講評をフィードバックする。併せて、受講生同士の相互評価結果もフィードバックする。

評価の基準

以下の配分を目安とした総合評価を行い、総計60点以上を「合格」とする。ただし総計60点以上であっても、「授業の3/1（5回）以上を欠席した」場合、「以下1.から3.のうちいずれか1つでも0点であった」場合には、原則として「放棄/不合格」とする。

1. 中間課題：計25点（％）
2. 中間課題：計25点（％）
3. 期末課題：35点（％）
4. その他（上記以外の課題提出状況、授業への参加度、等）：計15点（％）

履修にあたっての注意・助言他

常備的な受講マナーの遵守を求める。なお、遅刻は15分を限度とし、それ以上は「欠席」として扱う。やむを得ない事情により欠席する場合は「欠席届」を提出すること（履修要項等を参照）。
その他、グループワークを組み込んだ本授業では、各自が「主体的に仲間との協働にあたること」が肝要となる。そのことを十分理解したうえで履修していただきたい。
また遠隔でのプレゼンテーション/実践も予定しているため、各自でその準備が必要になる場合がある（たとえば、WiFi環境、アプリダウンロード、ヘッドセット[マイク付きのイヤホン/ヘッドホン]）。
具体的な指示は授業内でおこなう。

教科書

.使用しない. .

参考図書

.授業中に適宜、紹介. .

その他

授業中に適宜、プリント・電子ファイル・動画資料等の配布、共有、紹介をおこなう予定。

授業計画

- 第1回
オリエンテーション：本授業・学修の進め方・成績評価の方法 等
イントロダクション：プレゼンテーションとは（「何」を「どのように」伝えるか）
<予習>シラバスを確認する。これまでの自身の経験をふり振り返り、プレゼンテーションとはどのような行為かという自分なりの考えをまとめておく。（2時間）
<復習>本時授業のふり振り返り。関連知識の深化・拡大を目指した各自の探索的学習。（2時間）
- 第2回
<予習>シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。プレゼンテーション環境と課題提出。（2時間）
<復習>本時授業のふり振り返り。関連知識の深化・拡大を目指した各自の探索的学習。（2時間）
- 第3回
<予習>シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。プレゼンテーションテーマの構想と課題提出。（2時間）
<復習>本時授業のふり振り返り。関連知識の深化・拡大を目指した各自の探索的学習。（2時間）
- 第4回
<予習>シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。（0.5時間）
<復習>本時授業のふり振り返り。関連知識の深化・拡大を目指した各自の探索的学習。発表に向けた準備（デバイスの設定等）。（3.5時間）
- 第5回
<予習>シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。（0.5時間）
<復習>本時授業のふり振り返り。発表準備。（3.5時間）
- 第6回
<予習>シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。（0.5時間）
<復習>本時授業のふり振り返り。発表準備。（3.5時間）
- 第7回
<予習>中間課題（作成資料）の提出。シラバスの本時授業計画と関連事項、評価項目、デバイス等の確認。（2.5時間）
<復習>本時授業のふり振り返り。発表準備。（3.5時間）
- 第8回
<予習>シラバスの本時授業計画と関連事項、評価項目、デバイス等の確認。（1.5時間）
<復習>本時授業のふり振り返り。発表準備。（3.5時間）
- 第9回
<予習>シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。（0.5時間）
<復習>本時授業のふり振り返り。発表準備。（3.5時間）
- 第10回
<予習>シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。（0.5時間）
<復習>本時授業のふり振り返り。発表準備。（3.5時間）
- 第11回
<予習>シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。（0.5時間）
<復習>本時授業のふり振り返り。発表準備。（3.5時間）
- 第12回
<予習>シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。（0.5時間）
<復習>本時授業のふり振り返り。発表準備。（3.5時間）
- 第13回
<予習>シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。（0.5時間）
<復習>本時授業のふり振り返り。発表準備。（3.5時間）
- 第14回
<予習>シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。（0.5時間）
<復習>本時授業のふり振り返り。発表準備。（3.5時間）
- 第15回
まとめ：授業全体の振り返りと総括
総まとめ：授業全体の振り返りと総括
その他、課題確認、授業改善アンケート 等
<予習>シラバスの本時授業計画と関連事項の確認。（0.5時間）
<復習>本時授業のふり振り返り。期末課題の作成・提出。（5時間）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目の修得を通じて、全学共通のディプロマポリシーである次の力を特に身につけることができる。

- ・「ネアカ、のびのび、へこたれず」の精神をもった人材）
- ・どこにいても物怖じすることなく、誰とでもしつかり言葉を交わすことができる。
- ・自主・自立の精神を持った人材）
- ・自ら目標を設定し、他者に依存することなくそれを成し遂げることができる。
- ・自ら課題を設定し、それを解決に結びつけることができる。
- ・（仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材）
- ・他者に働きかけ、協力を取りつけることができる。
- ・他者との意見の違いや立場の違いを理解し、協力して物事を進めることができる。
- ・自分と周囲の人々や物事との関係・現状を適切に把握し、自らの役割を的確に果たすことができる。
- ・他者との間に相互に信頼し合う関係を築くことができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

受講生のプレゼン実践に関する取り組みそのものが学習となるという意味で、本授業は本質的に双方向型である。
また技術的にも、オンラインによる動画共有システムやアンケート（クリッカー）といったICTを積極的に活用することにより、授業の双方向性、および授業内外の学習の促進・効率化を図る。

実務経験の有無及び活用

備考